B3-4

外傷性意識障害患者に対する新看護プログラムの有効性

○西郷 典子[1]、大前 綾子[1]、松井 智枝[1]、金田 憲司[1]、水元 志奈子[1]、
三崎 律子[1]、片岡 恵美子[1]、松村 望東美[1]、八木 良子[1]、萬代 眞哉[2]

[1]独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部、
[2]独立行政法人自動車事故対策機構 岡山療護センター 診療部

【はじめに】自動車事故対策機構（以下NASVA）による紙屋式看護プログラム（以下新看護プログラム）の試験的導入に伴い当センターでもプログラムを開始し、その有効性について検討したので報告する。

【研究方法】対象：NASVAが設定した、新看護プログラムの対象に該当する、症状がほぼ固定したと思われる11症例。方法：1クール4週間でプログラムを実施。プログラム内容は生活行動の回復を中心に考えた温浴刺激看護療法、用手微振動療法、バランスボールによる運動療法などである。評価はプログラム初日と最終日にNASVAスコア・RYOUGO NURSING PROGRAM評価表（以下RNP評価表）・皮膚温測定・筋硬度測定・関節可動域測定で行った。

【結果】NASVAスコアでは11症例中5例、RNP評価表では全症例に改善を認めた。皮膚温では実施前後で有意（$P<0.05$）に増加や減少を認めたのは5症例、筋硬度では3症例であった。関節可動域は8例に改善を認めた。具体的には、睡眠覚醒リズム・摂食機能・足底接地・四肢の動きの改善、元々ある表情変化の頻度増加などが認められた。

【考察】11症例全てで改善が認められた原因として、温浴刺激療法で自律神経系がコントロールされ副交感神経が優位となり、筋肉の弛緩・血流の改善・リラックス効果を得たこと、更に用手微振動やバランスボールによる運動療法で関節やその周囲の筋群を弛緩させ身体機能の調整が得られたことなどが考えられる。この新看護プログラムは症状がほぼ固定したと思われる患者にも効果が期待できると考えられ、今後も症例を重ね検討していきたい。